

授業評価アンケート結果とその考察：
「意味論・語用論/英語学情報 II (2007 年度, 前期)」

英語教育講座・秋山正宏

「意味論・語用論/英語学情報 II」は、英語専修および国際理解教育コースの学生にとっての選択科目である。主として日本語と英語からの言語事実を土台にして、言語研究の中核的分野である意味論と語用論の入門的内容を学ぶ授業である。「授業の目的」および到達目標は以下の通りである。

授業の目的

語、句表現、文といった人間の言語の構成単位の持つ意味にはどのような規則性が見られるのか、そしてそのような意味を持つ表現を、人間は実際の場面でどのように用いているのかを、主として英語と日本語の例から明らかにする。

到達目標

- (a) 言語の意味現象に関する簡単な分析が出来るようになる。
- (b) 英文法あるいは日本語文法の重要な構文について、その意味上の特徴を正しく理解出来るようになる。
- (c) 英語教師、国語教師、日本語教師といった言語に関わる教師に必要な言語学の資質を養う。

各回の内容は以下の通りである(後述する持ち帰りワークシートで充当する回は除く)。

- 第 1 回 導入：言語の規則性における意味の重要性
- 第 2 回 意味論の基礎 1: 語と語の間の意味関係
- 第 3 回 意味論の基礎 2: 文と文の間の意味関係
- 第 4 回 意味論の基礎 3: 語の意味とその拡がり
- 第 5 回 意味論の基礎 4: 語の意味と日常言語とレトリック
- 第 6 回 意味論の基礎 5: 語彙化(1)
- 第 7 回 意味論の基礎 6: 語彙化(2)

- 第 8 回 意味論の基礎 7: 文文化
- 第 9 回 英文法と意味 1: 名詞の意味とその分類
- 第 10 回 英文法と意味 2: 動詞の意味とその分類
- 第 11 回 統語構造と意味: 統語構造と名詞句の意味解釈
- 第 12 回 語用論 1: 前提, 旧情報, 新情報とその周辺
- 第 13 回 語用論 2: 直示の体系, 「こ・そ・あ(・ど)」その周辺
- 第 14 回 語用論 3: 発話内行為と会話の含意

授業は、全て担当者自作のワークシートによる作業に基づいて進められた。成績評価には、持ち帰りのワークシートを使用した。授業評価アンケートは、最終回に行った。今回は、アンケートの結果を公表し、その結果について、若干の解釈を加えたい。なおこの授業は昨年度の報告書でも取り上げたが、授業の全般を通して授業形態の変更を行ったこと、それにあわせてワークシートを全面的に作成し直したこともあり、今年度も取り上げることにした。

A この授業へのあなたの出席状況は、どうでしたか。

1. 悪い (0/12)
 2. あまり良くない (0/12)
 3. 普通 (2/12)
 4. 良い (4/12)
 5. 非常に良い (6/12)
- 平均値 4.33

B あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

1. 全く意欲がわかなかった (0/12)
2. あまり意欲的に取り組まなかった (2/12)
3. どちらとも言えない (4/12)
4. やや意欲的に取り組んだ (5/12)
5. 非常に意欲的に取り組んだ (1/12)

平均値 3.42

C この授業で使われたワークシートについてお尋ねします。

C-1 全般的に言って、ワークシートの作業の難易度についてどう思いますか。

1. 非常に難しかった (0/12)
2. やや難しかった (4/12)
3. ちょうどよい (7/12)
4. 比較的やさしかった (1/12)
5. 非常にやさしかった (0/12)

平均値 2.75

C-2 それぞれのワークシートの種類、難易度に左右される部分が多いと思いますが、全般的に言ってワークシートに沿ったかたちで進められた担当教員の話しは分かりやすかったですか。

1. 非常に分かりにくかった (1/12)
2. やや分かりにくかった (0/12)
3. どちらとも言えない (0/12)
4. 比較的分かりやすかった (8/12)
5. 非常に分かりやすかった (3/12)

平均値 4.00

C-3 ワークシートの作業から学んだ内容およびそれに関連する担当教員の話しは、(難易度は別にして)あなたにとっておもしろい(知的好奇心をくすぐる、といった意味で)ものでしたか。

1. 全くおもしろくなかった (0/12)
2. あまりおもしろくなかった (1/12)
3. どちらともいえない (4/12)
4. 比較のおもしろかった (4/12)
5. 非常におもしろかった (3/12)

平均値 3.75

D この授業の担当教員についてお尋ねします。

D-1 担当教員は、受講者にとって参加しやすく、かつわかりやすい授業を行おうとする努力、工夫をしているように感じられましたか。

1. 全く感じられなかった (0/12)
2. あまり感じられなかった (0/12)
3. どちらとも言えない (2/12)
4. 比較的強く感じられた (10/12)
5. 非常に強く感じられた (0/12)

平均値 3.83

D-2 担当教員は、受講者の意見や疑問をくみ取り、かつそうした意見や疑問に真摯に答えようとしているように感じられましたか。

1. 全く感じられなかった (0/12)

2. あまり感じられなかった (0/12)
3. どちらとも言えない (2/12)
4. 比較的強く感じられた (6/12)
5. 非常に強く感じられた (4/12)

平均値 4.17

E あなたは、この授業を通して、外国語としての英語、あるいはより一般的に人間の言語が持つ規則性に興味・関心が向くようになりましたか。

1. 全くそういった興味・関心が持てなかった (0/12)
2. あまりそういった興味・関心が持てなかった (0/12)
3. どちらとも言えない (0/12)
4. そういった興味・関心をやや持つようになった (8/12)
5. そういった興味・関心を非常に強く持つようになった (4/12)

平均値 4.33

ワークシートの難易度(C-1, 平均 2.75)については、大体予期した通りであった。「分かりやすさ」についての評価 (C-2, 平均値 4.00, 前年度平均値 4.67)は、まずまずと考えると良いが、「非常に分かりにくかった」とした学生が1名いた点と前年度よりも大幅に数値を下げたことは反省せねばならない。「おもしろさ」についても(C-3, 平均値 4.04, 前年度平均値 4.33), 前年度に比べて数値が下がっており、受講学生の知的好奇心をくすぐる工夫がなされるべきであると感じた。ただ言語の規則性についての興味を喚起することが出来たか(E, 平均値 4.33, 前年度平均値 4.17)についての評価は、質問 C-3 に対する回答の平均を上回っており、ある程度言語の規則性についての関心を掻き立てることは出来たようである。教員側の工夫(D-1, 平均値 3.83)は、あまり受講生側には強く伝わってはいないようであるが、この点に対して肯定的ないしは否定的な評価を行うことは難しいだろう。質問 D-2 に対する回答の平均値(4.17)が比較的高いものとなったが、これは今年度の受講生が比較的頻繁に出席カードに質問、意見を記入していたことを反映するものであろう。自由記述欄に記入を行なった受講学生は8名であったが、授業及び担当者に対する否定的評価は見られなかった。総合的に見て、この授業に対する受講学生の評価は、まずまずと見て良いのではないだろうか。